

令和7年度 中学生の「税についての作文」
神奈川県納税貯蓄組合連合会 会長賞

感謝、そして未来へつなぐ

横浜市立 谷本中学校 第三学年 平林 弥真



元気にして、少しでも強いて選手を田舎にて練習に懸命に頑張る人がいたいる。

「税」と聞くと、身近なところでは消費税くらいしか思い浮かばずに生きていたが、学びを深めると、所得税や自動車税、固定資産税、住民税など生活する中で多くの税が存在する事が分かった。そこで、いつもして納められる税金は、既慣れた街の整備された道路や公共施設、一ヶ月間三百六十日休むことなく住民の生活を守る消防や救急隊、警察などに費やされ、僕たちの生活に安心と安全をもたらしてくれる。僕たちはみんな字を読むことや、書くことや、理解することもでき、それよりも税で支えられてきた。これからも僕たちは社会制度の恩恵を受けるのだからと思つ。今の僕は税に支えられることが多い、でもないことは限らねてこらのかもしない。だから僕は感謝を忘れず、大人になつた僕には少しだけ支える側になれるよう、恩返しの気持ちを持って税金を納めたい。また税金とは、生活と未来を変えてくれるものだと願つ。税金について教えたられる人にとって、希望となる人も多く存在する限り。必要な人に、必要な場所に、納められた税が届くことを願つ。

水泳の練習に励んでいたある日、突然速くなる脈が苦しく、不安に襲われた。かかりつけの医師に相談しながら、大学病院に行くことを勧められ、検査と治療を行うことになった。心臓カテーテル検査、アブレーションなどと聞き慣れない言葉がたくさん飛び交う中で、検査の口を迎えた。高度な医療を受け、数日入院し、退院のときの診察情報明細書にはこれまで見たことのないような点数が並んでいて、大変驚いたことを今もはっきりと憶えている。いわゆるこの医療制度が用いられ、自己負担はほとんどなかったことも衝撃だった。多くの人が納めた税金のおかげで、医療を受けることができたと改めて感謝した。そして今は症状も軽減し、また

